



## 経済学と経営学

東くんが前から疑問だったことを質問します。

「経済学と経営学って、どうも違いがよくわからないんですが」

「よくある質問だね。ではそろそろ、経営学に行こうか。ミネルバ！」とフクロウがいうと、また、一瞬の霧が出て、ふたりはまわりが見えなくなります。そして、霧がはれました。

椅子を取り囲んで浮かんでいるのは、会社のビル、コンピュータのディスプレイ、サラリーマン、帳簿、そして、さつきと同じように色々な商品たちです。

「あれ、経済学のとくと似たものも多いわ」と経子さん。

るか。そのことについて考えていく学問でもある」

「景気がいいとか悪いとか、そういうことも経済学で見ていくのですか」と東くん。  
「うん、いい質問だ。そうだね、もっと生産できるように機械や工場にお金を使うとか、もっと生活を良くするために商品を買うといった動きには波や循環がある。世の中を巡っているたくさんのお金が、どのように動き回っているのかを見ることも必要だ。このように、どのように投資や消費が動いていくのかを考えて、全体から見ていく方法がある。もう一つは、家族や企業のそれぞれが、モノの値段が変わるとどう行動するのかといった小さな部分から、考えていく見方もあるな」

「貿易とか国際経済のことも、経済学の分野ですよ」と海外のことに興味のある経子さんが聞きます。

「国と国の関係には、ひとつの国のなかとは違った複雑さがある。それも経済学で取り上げられる。いずれにしても、地球規模で変化の激しい時代だからこそ、経済学的な発想が大切になるわけだ。生産活動と地球環境を守ることをどのように調整していくかということも経済学で取り上げられる」



「そうだね、似たものもある。なぜなら、経済学でも、企業は登場する。ただ、その場合、経済全体の動きのなかのひとつの要素として扱われることが多い。ところが、経営学は、企業そのもののマネジメントを中心に、見ていく学問なんだ。そして、世の中には、企業以外にも様々な組織がある。そうした組織が、競争の中で、効率を高めて社会に貢献していく。そのためには、どのようにすればいいのかといったことを考えるのも経営学だ」

「そうか、経済学と経営学は、見ていくものが違うのですね」と経子さんは納得します。「うむ、ひとまずはね。ただし、きみたちなら、理解できそうだから、もう少し説明しよう」とフクロウは、身を乗り出します。

「少し前までは、研究する対象が違うとい

うことで、経済学と経営学をわけられたのだが、最近では、経済学にも、組織の経済学とか、法の経済分析とか、環境の経済分析といったものもあるんだ。そうになると、経済学が経済学であるという特徴は、その研究の仕方だともいえるね」

「なんだか、難しそう・・・」と東くん。

「いや、そんなことはないよ。経済学は、多かれ少なかれ、人は合理的に行動するものだという視点に立っている。そこから、すべてを見ていくんだ。まあ、最近は、行動経済学なんていう、不合理さを含んだ人間の立場から見ていく経済学もあるが。一方、経営学は、そうした経済学的な見方も使うし、もっと異なる見方も活用している。組織は、ヒト・モノ・カネ・情報といったものを効率よく使っていかないと生き残れないし、新しい知識を生み出すこともできない。そのことを一生懸命に考えているのが経営学だといえる。そのためには、会計学・労務管理・原価計算・販売管理・情報システム論といったことも勉強する」

「僕の父は、商学部の卒業ですが、経営学と商学は同じものですか？」（そういえば、東くんはお父さんとよくおしゃべりするらしい）。

「確かに、大学によって、経営学部とか、商学部と呼ばれているね。強いてわかるなら、経営学は組織の視点から見ていくし、商業学は取引とか交換そのものに焦点を当て

# rule



て考えるといえる。ただし、現実には違いが見えにくくなっている。学部を選ぶというときには、あまり違いを意識しなくてもいいかもしれないね」